

下田市立中学校再編に係る報告書保護者説明会 概要報告

1 説明会開催概要

(1) 中学校学区単位説明会概要

中学校学区	開催日時	開催場所	参加人数
稲梓中学校学区 (稲梓小・稲梓中)	平成 28 年 10 月 24 日(月) 午後 7 時～午後 8 時 40 分	稲梓小学校体育館	26 人
稲生沢中学校学区 (稲生沢小・稲生沢中)	平成 28 年 11 月 11 日(金) 午後 7 時～午後 8 時	稲生沢中学校体育館	16 人
下田東中学校学区 (白浜小・浜崎小・下田東中)	平成 28 年 11 月 17 日(木) 午後 7 時～午後 8 時 30 分	下田東中学校体育館	49 人
下田中学校学区 (下田小・大賀茂小・朝日小・下田中)	平成 28 年 11 月 15 日(火) 午後 7 時～午後 8 時	下田中学校体育館	33 人

(2) 幼保こども園説明会概要

区 分	開催日時	開催場所	参加人数
稲生沢保育園・ひかり保育園	平成 28 年 11 月 1 日(火) 午後 3 時～午後 4 時	稲生沢保育園	8 人
下田認定こども園	平成 28 年 11 月 4 日(金) 幼) 午後 1 時～午後 2 時 保) 午後 3 時～午後 4 時	下田認定こども園	49 人 幼) 38 保) 11
下田幼稚園	平成 28 年 11 月 7 日(月) 午後 1 時～午後 2 時	下田幼稚園	26 人
下田保育所	平成 28 年 11 月 8 日(火) 午後 3 時～午後 4 時	下田保育所	14 人

2 教育委員会出席者、配布資料及び説明会次第

(1) 教育委員会出席者

- ① 中学校学区：佐々木教育長、峯岸学校教育課長、山梨学校教育課参事、吉田学校教育係長、土屋(大)指導主事、土屋(真)技師、原主事（7名）
- ② 幼保こども園：峯岸学校教育課長、吉田学校教育係長、原主事（3名）

(2) 配布資料

- ・下田市立中学校再編に係る報告書（平成 28 年 8 月 下田市総合教育会議）
- ・下田市総合教育会議報告書説明資料（平成 28 年 10 月 下田市教育委員会学校教育課）

(3) 説明会次第

- ① 開会
- ② 挨拶（中学校学区：教育長、幼保こども園：学校教育課長）
- ③ 報告書概要説明（30 分から 40 分程度）
- ④ 質疑応答
- ⑤ 閉会

3 主な意見

(1) 中学校学区単位説明会

① 稲梓中学校学区

区 分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・再編することに伴い、通学時間等が長くなるため、部活動時間が短縮されるか。 ・参考資料として公共交通機関（路線バス）の想定をしているが、スクールバスなどの検討はするのか。 ・部活動に応じた通学バスの増便をお願いしたい。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生からのアンケートを実施したことはあるか。 ・1校化となる際、子どもが新しい地域や子どもたちとの関わりが生じるため、心の不安を少しでも和らげるような配慮をお願いしたい。 ・中学校再編に該当する世代の子どもたちに対するアンケートの検討をお願いしたい。 ・稲生沢中と下田中とを選考する際、下田小が津波浸水想定区域にあるため、下田中の土地に持っていくというような教育委員会としてのイメージを持っているか。 ・今後のアンケートや説明会についてのスケジュールを教えてください。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数による教育、小規模校にどのような支障があるか。 ・中学校を1校化にすることにより市内での競争がなくなるが、今後、その部分での検討をどう考えているか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・学校を少なくすることにより、定住人口がより減少すると思われるが、今後の人口推移を市としてどう考えているか。 ・空いた中学校跡地の活用について、どのように考えているか。地域の方に必ず聞かれるため。可能であれば、人が集まるような施設を検討していただきたい。

② 稲生沢中学校学区

区 分	意見内容
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・最短で想定される再編の年度は、いつからになるのですか。 ・今回の再編については、既に決定されたことなのですか。 ・参観日や運動会等、1校化になると駐車場等の確保は対応できるのか。 ・再編となると、新校舎建設工事等でその狭間の世代の子どもたちに対するストレスは相当なものと思われる。また、ジャージ等も今のまま使用するとなると違いもあり、多感な思春期でもあるのでそういった細かな部分に対する子どもたちへのケアをしっかりとしてもらいたい。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・1校化が望ましいということだが、再編前の該当する世代の子どもたちに対する指定校変更の対応を柔軟にしていきたい。

③ 下田東中学校学区

区 分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・通学について、市内全域からとなると地域によって不公平が出てくる。スクールバス等の検討はされているのか。 ・通学補助については、何年度まで継続されるのか。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちはこれまで少人数の中で育ってきたため、多人数となった際のメンタル面のケアや不登校にならない対応をお願いしたい。バス通学においても集団での移動となるため、何かしらの精神的負担も出てくると思われるため、細かな対応をお願いしたい。 ・大規模化のデメリットとして、教職員による子どもの把握が難しくなりやすいとあるが、中学生くらいの思春期の子どもたちだと、親でもなかなかコミュニケーションが難しくなる世代でもある。そういったところの対策をどう考えているのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進む中、学校がなくなることにより、この地域に定住する人が少なくなると思われる。また、地域によって子どもの数や文化などの格差が出てくることが懸念されるが、市としてどう考えているか。

④ 下田中学校学区

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 稲生沢となった場合、子どもが下田高校に通学しているのですが、親の送迎を制限している時間があったり、道幅も狭い。今の高校生に加え、より多くの子どもが集まることになると思いますが、何か対策を検討していますか。 ・ 遠方から通学する子どもたちのバス通学負担が高くなるため、スクールバスなどの検討はしているか。 ・ バス通学に対する便数やバス車内での子どもたちに対する配慮など、細かな検討をお願いしたい。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 遠方から通学する子どもに対する防災面での対応や、通学時における防災面での対応をどう検討しているか。 ・ 今後、稲生沢中と下田中との候補地の選定になると思うが、何を決め手に考えるのか。仮に稲生沢中となった場合、空いた下田中跡地に津波浸水区域である下田小を持っていくというような検討をされているか。 ・ 中学校の耐震ランクについて、詳細な説明をお願いしたい。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもたちの通学距離などを検討する中で候補地を選定するというのもわかるが、中学校跡地をどのように活用していくのか、それらを含めた有効性によって候補地を比較するというのも重要だと思う。跡地利用をどう検討されるのか。

(2) 幼保こども園説明会

① 稲生沢保育園・ひかり保育園

区分	意見内容
通学面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 再編するにあたり、通学補助が一番重要であると思います。関係各所と今後協議してとあるが、具体的にどこと協議するのか。統合が決まった後に検討するというスタンスではなく、ある程度、こういった補助を行うということを示した方が良いと思います。「どちらとも言えない」と回答している保護者が賛成に移ると思います。 ・ 通学について、参考として公共交通機関の内容を記載していますが、スクールバスなどの検討はされないのか。
再編関係	<ul style="list-style-type: none"> ・ 中学校再編に関する方向性、1校化することは既に決まっていることなのか。 ・ 反対、どちらとも言えないと回答している人が多いのに総合教育会議として1校化の方向性を示したのか。 ・ 実際に統合される中学校に通学する世代の保護者に対し、アンケートを実施するのか。 ・ 実際に統合される世代の保護者から中学校再編について、何も知らなかったということをよく聞きます。アンケートについても現在の小中保護者の方のみで、統合される世代の方からも聞いて欲しかった。説明会の時間帯設定も悪いのではないかと。 ・ 説明資料を配布するということが、こんな厚い資料を子育てが忙しい保護者は絶対に見ない。もう少し要点の絞った資料を配布してもらいたい。 ・ 資料内の「結論に至りました」という表現は、保護者に誤解を与えかねないので修正してもらいたい。 ・ 人口減少が言われているが、子育ての手厚いところに人は集まると思います。また、行政というのは大きな力を感じており、一度決定してしまうとなかなかそれを覆すことは難しくなります。そういった部分を十分理解していただき、慎重に進めていただきたい。
学習面	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合とあるが、現時点でどのような問題があるのか。
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 報告書は、学級数がメインで記載されており、少子化の進行により統合したとしても更に学級数は減少すると思われる。そういう状況であればもっと教育予算を使っていたらいい。 ・ 1校化になると残る3校の跡地の利用は、どのように検討されているのか ・ 通学にあまり関係ない地域に住んでいる人は、通学補助や候補地についても、安易に回答することができないということでどちらとも言えないと回答している人がいると思います。

	・中学校再編に関する周知方法について、例えば、保護者の方が良くいくところなどに資料を設置するなどの工夫した方がより浸透すると思います。
--	---

② 下田認定こども園

ア 幼稚園部

区分	意見内容
通学面	・現在の下田中を見ていると親が送迎しているケースを見ますが、統合となると車の台数が多くなるため、そういった送迎を禁止するといった検討をされていますか。
再編関係	・4校を1校にするということですが、新校舎のクラスなどの面積は既存校舎で実際足りるのか。 ・統合された際、中学2、3年生の制服がバラバラになると思うが、新たに新調されるのか。

イ 保育所部

区分	意見内容
通学面	・1校化になると市内各地からの通学となり、住んでいる地区によって通学費に差が出てしまいます。中学校は義務教育期間であるので、ぜひとも住んでいる地区によって差が出ないような配慮をお願いしたいです。 ・通学補助でなく、スクールバスなどの検討はされないのか。 ・バス時間などがない場合、親が送迎するケースも想定されるが、その送迎に対する補助というものも検討していただきたい。
再編関係	・再編は既に決定されたことなのですか。また再編のスケジュールと具体的にいつから1校化に統合されるのですか。

③ 下田幼稚園

区分	意見内容
再編関係	・再編の最終決定は平成29年度中になるのですか。 ・4校を1校にすると運動会等のイベント時、保護者の方の駐車場の問題が出てくると思われますが、何か検討をしていますか。

④ 下田保育所

区分	意見内容
再編関係	・再編する時期はいつで、対象となるのは今の何年生からですか。最終的な決定はいつ頃ですか。 ・仮に下田中となった場合、かつて大勢の生徒がいたので既存の校舎で対応できると判断しているのか、もしくは新築や改築を想定しているのか。 ・新築や改築となった場合を踏まえて、平成33年度以降という期間を設けているのですか。また、その期間はプレハブ等で生徒は過ごすことになりませんか。
その他	・空いた3校の校舎の跡地利用はどのように考えていますか。 ・中学校については、避難場所などに設定されていますが、そういった部分の対応はどうなるのですか。

H28.10.24 稲梓中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 10 月 24 日（月）午後 7 時から午後 8 時 40 分

場 所 下田市立稲梓小学校体育館

出席者 保護者：26 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書稲梓中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。ございます。

はじめに日程が変更になり、ご迷惑をおかけしましたことにつきましてお詫び申し上げます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、開催させていただきました。今日を皮切りに中学校学区単位に開催させていただきます。

私からは、今日に至るまでの経緯を簡単に説明させていただきます。

4 中学校の再編整備につきましては、ご承知のように、平成 19 年の稲梓中学校と稲生沢中学校の学校統合に向けて取り組みましたが、平成 21 年に皆さんの同意が得られず見送って参りました。

以後 7 年以上が経過し、少子化も更に進行している状況から、再度、新たに学校等再編整備審議会に諮問させていただき、平成 27 年 3 月に答申が出されました。

その答申内容の要旨は「将来的には中学校一つということも、視野に入れて再編を考えていくべきと思われる。その第一段階として稲梓中学校と稲生沢中学校を統合し新たな中学校を構築すべきである。また、下田東中学校が単学級になった場合は下田中学校との推進をしていく。」との答申が出されました。

その答申を受け、4 校を一校化で進めていくかについて、総合教育会議におきまして、生徒数の推移と準備期間の必要性を検討しながら、平成 28 年 1 月に保護者及び先生を対象にアンケート調査をお願いし、その分析をしながら慎重に検討してきました。平成 28 年 7 月に市長が交代し、新市長の考えも踏まえ、定例の教育委員会、総合教育会議で方向性を協議、調整しました。

その結果を踏まえ、8 月 26 日臨時の記者会見で市長より一校化で進め、そして候補地として、

稲生沢中か下田中として方向性を決定しました。また、9月の議会の全員協議会にも報告させていただきました。

そして、10月11日には、第1回の「中学校再編検討会議」を開催させていただきました。メンバーにつきましては11校の校長先生及びPTA会長様、市内6地区の区長会長様にご参加いただき、会議の検討事項につきましては、1校化に伴う課題や下田中、稲生沢中の候補地についての意見聴取をさせていただき予定をしており、今後、再編の方向性を見出していきたいと考えております。また、10月17日には市長と語る会も稲梓地区にて開催させていただき、地域の人たちのご意見を伺わせていただきました。

本日は、この後、担当より再編に関する細かな説明をさせていただきますので、忌憚のないご意見をいただければと思っております。

最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質疑

<係長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(男性)>

近い将来、少人数による教育課題が生じる可能性がある」と記載されていますが、教育委員会として少人数による教育について、どのような部分に支障があると判断していますか。

<課長>

少人数によるデメリットにつきましては、本日配布させていただいた説明資料32ページをお願いしたいのですが、小規模化のメリット・デメリットをまとめさせていただいております。その中に、集団の中で多様な考え方に触れる機会や学びあいの機会、切磋琢磨する機会が少なくなりやすいとありますが、やはり競争という部分がなくなってしまうと考えております。教育委員の方もよくおっしゃっているのですが、少ないクラスの場合、小学校1年生から中学校3年生まで同じクラスメイトでいきますとクラスの中である程度、形が決まってしまう、例えば運動が得意な子はこの子、勉強のできる子はこの子などとなってしまう、競争することがなくなってしまう。大きな学校になりますと、そこで競争、またクラス替えなどができるため、中学を卒業し、その後の高校や大学、社会に出たときに相当な影響は少なからずあるだろうとおっしゃっておりました。また、学校の先生がおっしゃっていたことなのですが、1クラスだけだとクラス対抗ができなく、何か競技を行うときに少ないクラスを2つに分けたとしても、競争が成り立たず、先生自身がどちらを応援したら良いかわからないとも、おっしゃっておりました。確かに、小規模であれば一人ひとりに

目が届きやすく、きめ細かな指導ができるというメリットはありますが、競争という面では教育委員会としては懸念があるだろうと考えております。

<保護者(男性)>

小規模校で卒業した子たちが、進学率が悪いとか、テストの数値が低いとか、そういった結果が出ていますか。自分の子を小規模校に預けており、将来、高校、大学へ進学することが難しくなるなど、少し心配もあるため、伺わせていただきたい。

<教育長>

申し訳ございませんが、数値的なものはありません。中学校から高校への進学率は90%を超えておりますが、例えば、小規模校の生徒が低いとか、標準校の子が低いとかということはありません。それは本人が次の高校へ行って学びたい、もっと力をつけて次の大学とか専門学校へのステップに進みたいという部分が大切だと思われれます。また一方、勉強ではなく手に職をつけて仕事をしたいなど、事例は様々あります。賀茂地域においては、ご承知のとおり、高校は3校あり、おおよそ子どもの数と高校の定員は賀茂地域の中でバランスが取れており、数値的にも表れております。結論としましては、学校の大小で成績の差が出るということはないと判断しております。

<保護者(女性)>

保護者の方のアンケート結果の稲梓中学の回答率の高さを見ると、この再編に関し、自分たちの意見などを反映させたいという気持ちの現れが出ていると思われれます。実際に稲梓中学に通っている生徒から、運動会の種目が少ないから何もできないとか、部活の選択内容もこれしかないからできないなどの話を聞きます。実際に通学している子どもたちが感じることは、たくさんあると思いますが、これまでに中学に通学している子どもたちからのアンケートを行ったことはありますか。

<参 事>

学校再編に関する子どもたちのアンケートを行ったことはあります。生徒の回答内容も今発言された部分の意見が多かったと認識しております。小規模校のメリットというのは確かにあると思われれます。小規模だからこそできることがたくさんあると思われれますが、やはり中学校という発達段階を考えたときに、先ほどの運動会の種目が少ないことや人数が少ないために何回も何回も出番がきて出場していたり、部活動においても具体的な話ですと女子バレーも組めない状況となっております。前回の学校再編の際に、稲生沢中学と合同で部活動を行ったこともありましたが、結果的に距離的なものもあって、途中までは行っていたがうまくいかなかったこともありましたが、先ほど担当からもメリット・デメリットの内容を説明しましたが、確かに小規模の良いところはたくさんあります。しかし、課長からも競争力というお話をさせていただきましたが、運動会であるとか様々な行事であるとか、特に部活動、中学時代の部活動というのは、これからの人生を送る上で、非常に大きな経験になる部分だと認識しております。教育委員会としては、子どもたちに少しでも多くのチャンスを与えてあげたいという視点に立ちますと、メリット・デメリット双方あるのですが、やはり適正規模の環境を整えてあげたいと考えております。

<課 長>

資料2 ページに平成27年3月に再編整備審議会から答申を受けておりますが、その答申を検討する際に子どもたちを対象としたアンケート調査を実施しました。その中で興味深かった結果があります。生徒に対して再編に賛成か反対かを聞いた設問で、子どもたちは今の環境を崩したくないという理由などで全体として反対の意見が多かったのですが、その割合が1年生は8割から9割、2年生は5割から6割、3年生は3割くらいまで減っているという結果で、3年生の意見とし

ましては、統合したほうが良いのではないかという意見も頂きました。1年生は仲の良い子とそのままいたいという理由で割合が高かったのが、3年生になるとこれまでの学校生活の中で、先ほどのデメリットにもある通り、部活ができないなど様々な経験を通じて、再編に反対という意見が減ったのではないかと考えております。

<教育長>

先ほど運動会の話が出ましたが、教育長として、昨年から4中学校の運動会を拝見させていただいております。稲梓中など小規模校の子どもたちは本当に一生懸命に頑張っております。一方、下田中など大きな規模の子どもたちはクラス対抗などの競争、クラスを勝たせようとか、勝った時の喜び方とか、自分の印象でしかないのですが、表情とかにしてもやはり大きな規模の中で切磋琢磨しながら、子どもたちがいろいろな経験をしながら育っていくことができるのかなと感じました。また、部活動についても下田中は吹奏楽部や美術部などがありますが、少し運動が苦手な子につきましても、人数が多くなると部活の選択もできるようになります。教育委員会として、今考えているのは、子どもたちにとって、何が一番良い環境であるのかを基本に、今回出させていただいた方針を基に本日の説明会を開催させていただいております。

<保護者(男性)>

部活の話が出ましたが、新中学校において、部活などは何時から始まり、何時くらいに終わるのかなど、家までの移動距離が長くなるので、逆に部活の時間が短縮されないのかなど、検討をお願いしたい。それから下田市の人口問題になりますが、様々な政策を立てて、人口が増えると想定されていますか。例えば、外から人を呼ぶとなると環境というものが大切であり、地域の近くに学校がないとやはり移住する人はいないと思いますし、学校がなくなるともっと人口が減っていき、稲梓地区に定住する人がいなくなるんじゃないかという心配があります。例えば、今後、人口が増えた場合には学校を増やすことなどができますか。もしくは人口は減少していくと想定しているのかどうか伺わせていただきたい。

<教育長>

部活動の時間については、現時点ではそこまで細かい時間設定はできておりません。しかし、当然距離によって、また季節によっても、今でも学校ごとに違う時間が設定されております。冬の時間を考えますとほとんどの学校で部活動ができない状態の下校時間となってしまいますが、そういった部分は朝の時間を有効活用するなど、子どもたちが少しでも部活の時間を確保できるようにしています。また、帰る時間についても一校化となった場合、当然、通学する時間が長くなるため、朝の時間も含めて検討をしていきたいと思っております。

<課長>

人口のお話ですが、本日は資料を持ってきておりませんが、人口減少についてはかなり厳しい状況になると考えております。これは下田だけの問題だけでなく、全国で抱えている問題でもあります。地域に産業がないと、言い換えれば働く場がないと人が集まってきません。そういったものを下田市で取りまとめた将来人口ビジョンがあるのですが、本日は資料がないため、具体的な数値を言うことはできませんが、かなり厳しいという状況になると教育委員会として認識しております。人口が増えるという部分では、東京都足立区で人口増加をしている地域があり、学校なども新たに建設しているという事例もありますが、下田市においては、人口は減少していくものと認識しております。

<保護者(男性)>

先ほど少人数で競争ができないという話がありましたが、今後、4校を一校化した場合、部活動や学校活動的なものの市内での競争ができなくなると思います。姪が稲梓中に通っているのですが、下田中の生徒たちが稲梓中の掃除がすごく良いということで、見に来たという話を聞きましたが、それは下田市内の中学校での競争だと考えております。部活動についても、指導する機会がありまして、下田中のバスケ部の子どもたちを見させてもらっているのですが、それに関しても下田東中には負けたくない、稲生沢中には負けたくないという話を良く聞きます。一校化になるとそういった市内での競争というものがなくなってしまうと思います。だからといって、稲梓中学校がこのままで良いというわけではありませんが、人数が少ないから一校化というものわかりませんが、市内での競争という部分がなくなるということについても検討をしていただきたい。

<参 事>

確かにその通りであると感じるところはあります。掃除につきましては、稲梓中は本当にどこの中学校から見ても、お手本となる素晴らしいものがあります。中学校だけでなく、中学生になったらこんなことまでできるんだという小中の交流も行っていると思います。そのような素晴らしい伝統があるということはこちらも認識しております。一校化になったとしても、こういった良いものを引き続き、伝統として残せるようにしていきたいと考えております。部活動についても、全くその通りだと感じております。確かに4つが1つになったら、市内には競争相手がなくなります。しかしながら、これからの下田市の人口や規模を考慮しますとやはり1校が適正な規模であるという部分もあります。市内には他に中学はなくなりますが、近隣市町の中学はあり、これまでは市内で競争していたものを賀茂地域という視点で、これまでの関わり方ができるようにしていきたいと考えております。また現在、教育全体において、賀茂の広域連携ということで盛んに様々な協議を行っております。そういった部分でも賀茂地域の中学校での競争、さらには賀茂地域を超えた競争など、今後十分に検討することができると考えております。

<教育長>

市内のそういった競争についてもいろいろと考えさせていただきました。ただ、人口が減少してきている中で、ある学校ではバスケができて、ある学校ではできないなどという人数のバランスというのは非常に難しく、例えば、ある程度大きな学校になれば、今までは賀茂で終わっていたものが、東部大会、県大会あるいはその上を目指すという目標を持つことによって、子どもたちの励みにもなるのではないかと考えております。掃除についても、素晴らしい伝統というものを一校化となった場合にも新たな伝統として残していきたいと考えております。

<保護者(女性)>

再編はいつ頃を目途に考えておられるのかということと、通学という部分で公共交通機関だと1時間に1本しかない状況であるため、結局、親が迎えに行かなければならなくなると思われれます。公共交通機関以外の方法を検討されているのかお伺いしたい。

<教育長>

再編の時期ですが、現在のところ、平成33年度以降で検討させていただいております。少し時間がかかりすぎると思われれますが、様々な調整事項もあるのも事実でして、そういった中でもスピード感を持って対応をしていきたいと考えております。

<課 長>

通学のことにしまして、バスダイヤにつきましては、資料42ページに記載させていただいて

おりますが、再編となった場合、ダイヤ改定を交通事業者と検討させていただき、ダイヤ本数についても協議させていただく中で調整をさせていただきたいと現在のところ、想定しております。

<教育長>

公共交通機関というものとは別にスクールバスなどの検討についても、子どもたちの環境や市の財政的な面の問題もありますので、これから様々なご意見を頂きながら、検討をさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

一校化となった際に、残る3つの中学校の使い方について、稲梓中はかなり老朽化が進んでいると思いますが、何か検討をしていますか。先ほど、子どもがいなくなると地域が寂しくなり、みんな外に出てしまうと集まる場所がなくなってしまうと考えています。そういったことを考えますと残った中学校を利用し、人が集まるようなものを各地区に残していただいた方が良いのではないかと考えておりますがいかがでしょうか。

<課長>

ただ今の質問につきましては、先日稲梓で行った市長と語る会でも同じ質問を受けました。教育委員会としましては、まず、子どもの学習環境を良くするために中学校を一校化にしようということで現在、進んでおります。また、現時点においてはどのように跡地を利用するのかということは決まっておりません。しかし、これから4年5年と時間をかけて進めていく中で、稲生沢中か下田中どちらかの場所が決定された時点で、跡地利用についても当然、検討を進めていかなければならないと考えております。

<教育長>

教育委員会としましては、まずは学校を再編する上でどんな形が良いのかというところで進めさせていただいております。当然、跡地のことも考えていかなければなりません。市長と語る会の中で、稲梓中跡地に市役所を建てれば良いというご意見をいただきました。跡地利用については、色々な検討をしなければならないと思いますが、学校再編を検討している中でそれらを併せて検討するとなると、政治的にと言いますか、天秤にかけられると言いますか、そういった状況になるのが、子どもの教育環境を良くしていこうという中で、非常に怖いと考えております。ある程度、学校再編の方向性が決定した上で、跡地利用というものを検討していくことは、十分にこちらも理解しております。

<保護者(女性)>

3点ほど、お願いがあります。1点目は、部活動に応じた通学バスの増便、また子どもに負担のない形での対応をお願いしたいです。2点目は、私たちの子どもの世代は認定こども園などで一度は市内全域の環境を経験しましたが、現在は各小学校に分かれております。そういったことを踏まえると、子どもが再び新しい地域との関わりが生じるようになるため、子どもの心の不安を少しずつ和らげるような、他校と交流する時間を多くしていただけるような配慮をお願いしたいです。3点目は、その不安からなのですが、子どもに対してのアンケートを、家族で再編について考えることができるようなアンケートを検討していただけるとありがたいと思います。

<教育長>

1点目の部活動については、各部活で時間をバラバラにするのではなく、統一した形で対応し、朝や夕方の時間を合わせるような形で検討をさせていただきたいと考えております。2点目の子どもたちの不安を取り除くような配慮についてですが、子どもたちの不安というものは、本当に色々

なことを想像していると思われませんが、実際にその中に入ってみると上手くスムーズに行くケース、あるいは逆のケースもあると思います。中学生の年代になりますと自分というものがあ程度、確立される世代になっていると自分のこれまでの経験ですが考えております。そういった中で、自分の仲間というものも自分自身で見つけることができるのではないかと感じております。このメンタルという部分につきましては、こちらとしても色々な配慮をしながら、いかに素晴らしい新中学校を築いていくのかを、子どもたちが情熱を注ぎながらそういった方向に向かっていけるような配慮をしていきたいと考えております。

<課長>

3点目のアンケートについてですが、現在、学年が低い子どもたちが再編に該当する世代となりますので、今後、ある程度、方向性が定まってきた段階でアンケートなどを実施させていただき、家族で再編について話し合えるような機会を設けることができるようなものを検討させていただきたいと思っております。

<保護者(男性)>

少人数になることにより、再編に進むという部分につきましては、理解させていただきましたが、跡地利用の部分については、我々も地域の方などに話をする際に必ず聞かれるところになります。今日の説明会は子どもたち主体で考えられた説明会で、地域に対する、中学校がなくなることによる地域の空洞化に対する具体案が何ら示されておられません。そういった地域に対する内容の説明という部分ももう少し示していただきたい。

<教育長>

教育委員会としましても、子どもたちのこと、また地域のコミュニティのこと、当然、この2つのことは大切であると認識しております。例えば、中学校が地域とどういった交流をしているのかを考えてみますと、稲梓地区は田植え、防災、お祭りなどいろいろな関わりを持っていますが、実際は学校にいる時間というものが、一番長いと考えております。一方、小学校というのは、もっと地域との交流を行っているという認識を持っています。そういった中で、中学校を一校化した場合、地域との交流ができるかどうかという部分ですが、私はできると考えております。稲梓の子どもたちが田植えをやるということだけではなく、例えば、総合的な学習の時間の中で、海辺の子どもたちが田植えを行ったり、逆に稲梓の子どもたちが海での体験を行ったりすることができると考えております。今年から体験プログラム事業を各学校で行っておりますが、やはり山の子は米作りであったり、海の子は海の体験であったり、それぞれの地域の枠の中で事業を行っています。それが一校化することにより、プログラムがたくさんある中で山と海でたくさんの選択肢が増えます。理想と言われればその通りかもしれませんが、通学の距離もありますが、交通網は過去に比べ発達している中で「下田は一つ」であるという視点を大切にしていきたいと思っております。

<係長>

本日は教育委員会という立場で説明会を開かせていただいております、私たちは子どもたちの教育環境の充実を第一目的として、様々な検討をさせていただいております。跡地利用については、市の全庁的な対応となってきます。当然、皆様からのご要望にお応えしながら、跡地利用というものはこれから考えていくものだとして認識しておりますが、もう少し学校の姿がはっきりとしてきた段階で、当然地域のことを考えていくべきものだと考えておりますので、どうぞご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

<保護者(男性)>

候補地についてですが、評価点で稲生沢中か下田中かという候補になったと理解しましたが、例えば、教育委員会所管である下田小などは津波浸水想定区域内にあるため、下田小を下田中の跡地に持っていくというような教育委員会としてイメージを持っていますか。仮にそれらを考慮しますと、稲生沢中の方が候補地として加点がされると思われるのですがいかがでしょうか。

<教育長>

今回の再編についての説明でございますが、あまり小学校のことが触れられておりませんでした。再編整備審議会の答申では、小学校は複式学級が出てくるまでは統廃合を考えないという内容になっております。そういった中で、今のご意見を頂いたとおり、下田小の他にも、朝日小、下田保育所が津波浸水区域になっている中で、何を最優先にするかと言われますと今の段階では、避難路を確保することを最優先に施策を進めております。しかし、これからは今頂きましたご意見のように様々なご意見を伺いながら、検討を進めていく必要があると認識をしております。

<保護者(女性)>

これから数年かけて、再編を進めていくと思われませんが、こういった説明会やアンケートについて、どれ位の回数を行っていくと想定されていますか。

<課長>

まず、説明会については、本日は稲梓中学校学区にて開催させていただいておりますが、これから、市長と語る会の開催に応じて、稲生沢中学校学区、下田東中学校学区、下田中学校学区にて必ず1回は開催させていただく予定で、その後は必要に応じて、随時開催させていただきたいと考えております。アンケートにつきましても、学校を通じて、今後実施させていただく予定となっております。いずれにしても、皆様からのご意見を伺わせていただくことが非常に大切であると認識しております。また、別に再編検討会議も開かせていただいております。その中でもご意見を伺わせていただいております。こういった形で進めていながら、必要に応じて説明会などを開催させていただきたいと考えております。

<係長>

再編まで数年ありますが、それぞれの段階で当然協議する内容、ご意見を伺う内容が変わって参りますので、その都度、検討をさせていただき、説明会を開催するなどの対応をしていきたいと考えております。今回につきましては、総合教育会議で示しました方向性についてのご意見を伺わせていただいておりますので、それらをまとめさせていただいた後に、次のステップの内容についてのご意見を伺わせていただくという形で、段階に応じ、対応させていただきたいと考えておりますのでご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

5 閉 会

<係長>

それでは、これを持ちまして、稲梓中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.11 稲生沢中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 11 日（金）午後 7 時から午後 8 時

場 所 下田市立稲生沢中学校体育館

出席者 保護者：16 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書稲生沢中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、中学校学区単位に開催させていただいております。10月24日には稲梓中学校学区で説明会を実施し、未就学児の保護者の方を対象としまして、認定こども園や幼稚園・保育所等の説明会も実施させていただきました。

また、市長と語る会を10月17日から昨日の11月10日までの期間、市内6地区で開催しました。市長より、学校再編をトップに庁舎や地域の課題について、話し合いを持ちました。

それぞれの会での、ご意見としましては、通学費や通学方法、そして、1校化になった場合のメリット・デメリット等のご意見を頂きました。

この後、事務局より今日に至った経緯と今後に向けてのスケジュール等の説明をさせていただきます。最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<課 長>

いきなりご意見をというのは難しい部分があると思いますので、私からこれまでの説明会の中で、主な質問について、少し話をさせていただきます。これまで、稲梓中学校区、民間保育園、幼保こども園にて説明会を開催させていただきました。その中でのご意見としまして、まず今回の再編について全く知らなかったという方がおられました。この会場で全く知らなかったという方はおられますか。(⇒結果：0人) ありがとうございます。また、通学に関する意見も多くいただきました。具体的には、資料にもありますとおり、現行補助制度につきましては、小学生は4 km以上に全額、中学生は6 km以上に半額、補助金を交付しています。ただし、過去の統合などにより、距離制限のない地域もございます。稲生沢中学校区は補助対象となる子どもがいないため、現在補助は出しておりません。仮に下田中学校となりますと相当な方が対象となり、平成33年度で対象者が90人、バス利用の場合ですと全額で1,076万円。現制度のままですと半額の538万円補助し、残る半分は家庭でご負担していただくということになります。90人ですので、単純計算で1人当たりおおよそ6万円になります。幼保の説明会の時もこの通学に関する質問が最も多くご意見をいただきました。あと学校跡地の問題や教育予算をもっとつけるべきだというご意見も頂きました。

<保護者(女性)>

最短で想定される統合の年度は、いつからになるのですか。

<課 長>

平成33年度以降になり、平成33年度から仮に再編となりますと今の小学校2年生から4年生が、中学校1年生から3年生になる時になります。最短で平成33年4月1日からとなります。

<保護者(女性)>

再編については既に決定されたことなのですか。

<課 長>

資料の48ページを見ていただきたいのですが、あくまでも今回の報告書の内容において、1校化や候補地については、いずれも「望ましい」とさせていただいております。また、総合教育会議というのは協議調整機関でありまして、決定機関ではありません。よって、市として方向性を示させていただいたということで、決定ではありません。決して、市が一方向的に決定したということではなく、今回、説明会など実施させていただいておりますが、多くの方からご意見を伺い、できる限り、この1校化の再編の方向性へそのご意見を反映させていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

一校化が望ましいということですが、今、学区外申請というのが非常に厳しいということを知っています。私の子どもは小学4年生で再編時中学校3年生になるのですが、統合という理由でそれまでの間、学区外申請を柔軟に対応していただきたいです。仮に下田中となった場合には、中学へ上がると同時に下田中へ通学をさせていただきたいと思っております。

<参 事>

新中学校の候補地については、まだ未定ですので何とも言えない部分はありますが、現行の制度

上、中学の指定校変更は難しい部分があります。小学校は比較的條件が緩やかですが、中学の場合、例えば共働きで家に誰もおらず、下田地区に祖父の家があり、学区を変えることができるというような家庭的枠組みというものがなくなります。確かにそういった部分も検討しなければならないと思いますが、やはり特別な事情（不登校や教育的配慮等）がなければ困難だと考えております。教育委員会としては、急いで統合する先の学校に行くということではなく、やはり再編に向けて、これまで以上に中学校同士の交流活動を多く行い、そういった活動を通じて壁を取り除いていくような計画などを検討していかなければならないと考えています。

<保護者(女性)>

2点ほど確認をさせていただきたいです。1点目は、現在でさえ雨天時など、参観日等、駐車場が車で混乱していますが、1校化になるとそれがより顕著になると思われませんが何か対策を検討していますか。2点目としましては、仮に稲生沢中学校が新中学校候補地となった場合、新校舎建設や改修工事などで、その時点で通学している在校生に対するストレスは相当なものだと思われまます。また、統合後、制服やジャージなど、今までのままのジャージを使用するとなった場合、やはり中学校ごとに違いもあり、多感な思春期でもあるのでやはり少なからずそういった部分でもストレスを感じるかもしれません。そういった子どもたちに対するケアをしっかりとしてもらいたいと思います。

<教育長>

まず、1点目につきましては、仮に下田中が新中学校候補地となった場合、駐車場については、近隣に市の施設が多くあるため、それらを活用しながら今後、対策を練っていくものだと思います。また一方、稲生沢中となった場合には、駐車場については場所がないため、まさしくそういったところを検討課題にさせていただきたいと思います。

<参事>

2点目のストレスケアにつきましては、全てのストレスを排除することは、難しいことだとは思いますが、子どもの学習環境を第一に考えた対策を考慮させていただきたいと感じています。制服やジャージにつきましては、例えば、中学校別々であったとしてもなるべく早い段階に同じ制服やジャージにするなど、先を見越した統合準備委員会などの対応もできるのではないかと考えますが、その内容の詳細については、今後決定されるものだと理解しております。

<係長>

今、説明会を開催させていただいておりますが、同時に保護者の方、全てを対象しましたアンケートを実施させていただきます。教育委員会としまして、皆様からの多くのご意見を頂くとともに多くの課題について、今、再編の検討会議というものを設置しており、その中で皆様のご意見を集約、検討させていただき、より良い学校再編に向けて進めていきたいと考えております。教育委員会といたしましても保護者の方のご意見は大変貴重なものであると認識しており、保護者の皆様におかれましても、ぜひともお声掛けをしていただき、多くのご意見をお寄せいただきますようご協力よろしくお願いいたします。

5 閉 会

<係長>

それでは、これを持ちまして、稲生沢中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.17 下田東中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 17 日（木）午後 7 時から午後 8 時 30 分

場 所 下田市立下田東中学校体育館

出席者 保護者及び教職員：49 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田東中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育 長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、中学校学区単位に開催させていただいております。10月24日には稲梓中学校学区、11月11日に稲生沢中学校学区、11月15日に下田中学校学区で説明会を実施し、また未就学児の保護者の方を対象としまして、民間保育園、認定こども園、幼稚園及び保育所での説明会も実施させていただきました。

また、市長と語る会についても10月17日から11月10日までの期間、市内6地区で開催しました。市長より、学校再編をトップに庁舎や地域の課題について、話し合いを持ちました。

それぞれの会での、ご意見としましては、通学費や通学方法、そして、1校化になった場合のメリット・デメリット等のご意見を頂きました。

この後、事務局より今日に至った経緯と今後に向けてのスケジュール等の説明をさせていただきます。最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<課 長>

いきなりご意見をというのは難しい部分があると思いますので、私からこれまでの説明会の中で、主な質問について、少し話をさせていただきます。これまで、稲梓中学校区、稲生沢中学校区、下田中学校区、民間保育園、幼保こども園にて説明会を開催させていただきました。その中でのご意見としましては、まず具体的にいつ再編を行うのかというご意見がありましたが、今現在、早くても平成 33 年度以降に再編をさせていただくということで進ませていただいております。具体的には、現在の小学校 2 年生から 4 年生の子どもたちが、中学校 1 年生から 3 年生になるときになります。2 目としましては、この 1 校化はもう決まったことなのかというご意見ですが、先ほど説明をさせていただきましたが、総合教育会議での方向性を示したということであり、今回のような説明会を開催させていただく中でご意見を伺い、再度、再編整備審議会へ諮問、答申を経た上で、今後進めさせていただきたいと考えております。最終的な行政的な手続きといたしましては、学校設置条例というものがございまして、これを改正し、市議会でこれを認めていただいた後、正式な決定ということになります。3 目としまして、やはり通学補助に関する問題につきましてもご意見をいただきました。概算的なことで説明をさせていただきますが、資料の 51 ページをお願いします。現在、下田東中学校に対しましては通学補助を交付しております。具体的には、50 人の方に補助支給額として 209 万円交付しておりますが、逆を言いますと中学生は半額補助ですので、同じ金額を保護者の方がご負担していただいております。単純に 1 人当たりを算出しますと年間 4 万円くらいになります。一方、再編後の想定ですが、資料 56 ページに白浜、57 ページに浜崎地区が掲載されておりますが、今の補助制度のまま、下田中学校あるいは稲生沢中学校に通学するとなった場合、1 人当たりのご負担は倍の 8 万円から 9 万円程度に上がってしまいます。具体的な通学の補助内容については、今後決定されますが、教育委員会としまして、保護者の方に今以上の負担を増やさない形で取り組んで参りたいと考えております。

<係 長>

先ほど担当から説明をさせていただきましたが、12 月に第 2 回の中学校再編検討会議という市内全小中学校の校長先生、PTA 会長、市内 6 地区の区長会長さんを集めた会議を開催させていただきます。その中で、今回説明会を各地区で開催させていただいておりますが、そこで頂いたご意見などを反映させていただき、色々な課題などを集約させていただきたいと考えておりますので、ぜひともご意見をいただければと思います。

<保護者(女性)>

通学について、一番不安があります。今は 4 万円くらいの負担ということでしたが、市内全域からの通学となると地域によっても不公平が出てくると思われまます。通学のためのバスというものを検討されているのかお伺いしたいです。

<課 長>

スクールバスの運行についてですが、現在のところ未定です。先ほど通学補助の説明をさせていただきましたが、既存補助制度のままだと負担が増えるというお話をさせていただきましたが、この想定は

バス路線を活用したものになります。スクールバスの運行につきましても、ご意見を頂いておりますので、今後の検討課題として貴重なご意見として伺わせていただきたいと思います。

<係 長>

補足させていただきますが、先ほど負担という部分につきましては、既存制度の1/2という形で説明をさせていただきましたが、できる限りこれ以上保護者負担が増えない形で検討を進めさせていただいております。今回、説明資料でなぜ公共交通機関、バス利用を想定させていただいたのかと言いますと、例えば生徒の安全確保という面におきましては、スクールバスというものは非常に有効であると理解させていただいております。しかしながら、市全体のことを考慮させていただきますと公共交通機関、特にバス路線は高齢者の足となっておりますが、近年バス利用者が減少してきており、減便あるいは廃止という形になっておりまして、そういったものを維持させていきたいという意図もありまして、今回の想定をさせていただきました。この通学部分の検討につきましても、そういった市全体の視点も踏まえた形で、当然、皆様方からのご意見につきましてもしっかりと整理させていただき、課題解決をさせていただきたいと考えております。

<教育長>

不公平感というお話をいただきましたが、これは当然、地域によって違ってくるということで、なるべくそういったものがないように教育委員会としては、配慮させていただき、進めさせていただきたいと考えております。

<保護者(男性)>

通学補助について、仮に実施した場合、何年度まで続くのですか。

<課 長>

今の制度は、いつまでといった期限を設けておりません。新たに補助制度を創設などした場合につきましても、現在のところ、期限を設けるという考えは持っておりません。

<保護者(男性)>

下田市の人口は減少しておりますが、この地域に住んでいる人、新たにこの地域に住もうとする人もそうですが、中学校がこの地域になくなるということを考えますと、やはり中学校の近くに住みたいと考えるだろうと思います。今後、小学校についても人数が減少し、いずれは小中ともなくなるという想定も十分に考えられると思います。小中学校は地域の文化の拠り所という側面もあり、そうしますと地域によって、子どもの偏りや格差というものが発生するのでないだろうかという危惧しています。そういった部分について、教育委員会としてどう考えているのかという部分をお伺いしたいです。また、中学校がなくなることにより、周辺土地の価値が下がると思われますが、そういったことについて、市政全般のことですので教育委員会には関係ないことだとは思いますがお伺いします。

<教育長>

まず、文化の拠り所ということで、ご意見の中で小学校のことも含まれていたと思われれます。先ほど再編整備審議会の答申の説明をさせていただきました。今回は中学校部分のみの説明だけでしたが、小学校部分の答申もありまして、それがどういったものかと言いますと、複式学級が発生した時に再編を考えていくという内容になります。今の数字的なところからいきますとあと10年は複式学級は発生しないという想定をしております。ただ、急激な人口減少により複式学級が発生する場合がありますが、文化という側面を踏まえると小学校と地域は非常に繋がりが強いものだと思います。一方、中学校を考えてみますと、中学校のお子さんをお持ちの方はある程度お分か

りになると思われませんが、部活動等も行っている関係もあり、ウィークデイでの地域との繋がりというものはあまりないのではないかと考えております。ただ、祝祭日の例えばお祭り、お祭りについては地域によって土日関係なく平日に実施するところもございいますが、あとは防災訓練など、限られた部分での繋がりだと考えております。そういった点を踏まえると仮に1校化になったとしても、当然今現在続いている繋がりを持続していく必要はありますが、十分対応することは可能だと思います。教育委員会としましては、確かに地域性というものはありますが、先ほど通学時間の説明しましたが、時間等を考慮しても全く無理だという通学時間でもないという中で、下田は1つという視点や子どもたちのことを一番に考え、より良い教育環境を整えたいというところから今、学校再編を進めさせていただいております。人口減少のお話もありましたが、教育委員会としましては、今の子どもたちにどうしたらより良い教育環境が整えられるかという部分に重きを置いて検討をさせていただいており、多くの人を地域に住んでもらうことなどといった視点で考えますとどちらかと言えば、ある意味、そうではないということを進めさせていただいていることをご理解していただきたいと思っております。

<課 長>

具体的に4校を1校にすると3つの中学校はなくなってしまいます。当然、その後の跡地利用については、今後どうしていくかという部分は、今申し上げられないのですが、その跡地利用を有効に検討していかなければならないと理解しております。また、そういったご意見もこれまでの説明会などでも多くいただいているところでございます。

<係 長>

補足をさせていただきますが、跡地利用のことですがまだ検討の段階にも入っておりませんが、地域の核となる中学校がなくなるという形になりますので、当然、地域の要望を踏まえながらどういったものを設置したら良いのかということ市として考えていかなければならないと思っております。今後、そういった跡地利用の検討に入ったときでもそうなのですが、こういったものが必要であるなどといったご意見につきましても、ぜひ要望をしていただきますようよろしくお願いいたします。また、今回説明会を開催させていただいておりますが、この資料をもとに保護者の方全てを対象にアンケートを実施させていただきます。その内容につきましては、2校のうちどちらが良いかという設問などありますが、皆さんのどういった不安があるのか、どういった課題があるのかという部分につきまして、ご記入いただき、それらを整理させていただいた後、検討会議等で活用させていただきたいと思っておりますので、ぜひともご意見をお寄せくださいますようお願いいたします。

<保護者(女性)>

地域の子どもたちは少人数の中でずっと育ってきました。子どもたちのメンタル面での対応を、不登校とならないような対応をお願いしたいです。また今まで歩いて通学していたものが、バス通学などになりますと一定時間、集団で集まって、登下校するというような形にもなり、その中でも様々な部分で精神的負担が増えるのかなあと危惧しております。そういった部分での対応もぜひとも検討をしていただきたいと思っております。

<参 事>

先ほど、メリット、デメリットの部分の説明をさせていただきました。やはり小規模校の良さというものは当然ありますが、小規模校のデメリットというものも一方ではあります。小規模校でクラス全体が本当に仲良く、ずっとそのままいければ非常に良いことだとは思いますが、発達段階の

中で人間関係のトラブルなどがあった場合、単学級だとやはり逃げ場がなくなってしまうケースがあります。結果として、元の学校にすることができなくなって、転校してしまったという事例は正直なところ、いくつかありました。そういった部分は本当にメリットでもありデメリットでもあるということを感じております。一方、規模が大きくなったからといって、学級編成が変わるからといって、トラブルが全くなくなるのかというと、そういうものでもなく、いじめや不登校なども発生する可能性は正直あると思います。確かにそういったリスクがあるのも事実なのですが、今の中学生に対しまして、競争力というか、何かそれに付随する部分が欠如している傾向があるのではないかと感じております。小規模校から高校へ進学するとやはりそういった経験という部分において、やはり差が出ているという部分がある中で、中学生という発達段階を考えますと1校化とした環境にするのが良いのではないだろうかと考えております。また、ケアという部分につきましては、最近、県の事業でスクールカウンセラーの配置などを積極的に行っております。例えば、東中学校にも年間何日か訪問をさせていただいているのですが、その分1つになれば、それだけ多くの日数、訪問をしていただくことが可能となり、手厚くケアすることができるようになります。

<保護者(女性)>

大規模化のメリット、デメリットというところですが、教職員による児童生徒の一人ひとりの把握が難しくなりやすいという記載がありますが、下の子がこども園に通園しており、大規模になってメリットもあり、デメリットもあると痛感しています。どうしてもこの部分については否めないところだと思うのですが、どんなことに対しても、家庭でもそうですし、中学校でもそうですけれども、情報を知りえないことが何かあったときに、子どもから言ってくれるようなコミュニケーションというのを親がとれる関係があれば良いと思うのですが、中学生になると思春期ということもあり、親もそういったものが取りづらくなる時期だと感じています。教職員の先生も大規模化になると把握が難しくなるという中で、今の時点でデメリットとして、私自身も心配をしております。何かそういったところの対策というものがあれば教えていただきたい。

<教育長>

具体的な対策と言われますと、これから詳細については検討していかなければならないことだと思います。子どもの成長段階で思春期というお話がありましたが、子どもが成長していく上では必ずそういう時期を乗り越えていく、あるいは自分達の自助努力で解決していく能力というものが必ず必要になってくるものだと感じております。小学校の小さいときは、先生方が面倒を見ていますが、小さい中学校で同じような形で面倒を見たときに、子どもたちが手厚く見守られている中で育っていくと思いますが、果たしてそれが本当に子どもの将来の自分の人生設計、あるいは進路を見出ししていくときにたくさんの仲間がいて、そしてその中で自分の考えを話したり、目に見えないプラスの面も当然あるのではないかと感じております。私たちが育った時代、保護者の皆さんが育った時代の学校は、どういった学校だったのかということを考えますと、やはりある程度の規模の学校の中で色々なことを勉強して、たまには少し横道にそれてみたりといったことがある中で、仲間と語り合いながら、自分というものをもう一度見つめなおしていたのかなあと感じております。大きい学校だから全く問題はない、小さい学校だから全く問題はないということではないと思いますが、先ほど説明させていただきましたが、適正規模とありましたが、やはり中学校という時期においてはその規模の中で子どもたちが過ごしていくということが大切なのではないかと感じております。当然、何かあったときにすぐにどう解決していくのか、手厚い教職員の配置なども考えられますが、これは定数というものは決まっておりますので、例えば1学年4クラスですと6人の教員

をつけることができます。それに今は県や市の予算で支援員という先生も配置しております。そういった人たちが1つの学校に集まることによりまして、色々なところで対応ができるのではないかと考えております。正直なところ、すべてに目が行き届くということは出来ないかもしれませんが、あとは学校の先生方や子どもたちがどういった中学校を作っていくんだという方向性を考えながら、伝統を作っていくんだということを考えていくということも大切なのではないかと感じております。

<参 事>

大規模という目安ですが、やはり1,000人とか1,500人くらいの生徒数の学校を指します。今回の想定ですと、仮に統合したとしても450人と想定させていただいております。私自身も下田中を卒業したのですが、それよりも少ない人数になります。そう考えますと決して今回の規模は大規模というイメージを自分自身は持っておりません。450人くらいの生徒に、自分は目が行き届くと思っております。もちろん今の東中の規模と比較するとなかなか450人を見るというのは難しいと思います。そして、今、中学というのは学年部単位での指導になっていきますので、もちろん今の東中も学年部はあります。でも結果的に職員数も少ないですから、学年部を超えて学校全体を見る形になっておりますが、恐らく学年部体制で、その学年の子どもたちをチームで見えていく、そういった部分では見やすくなるのではないかと考えております。

<係 長>

それでは最後になりますが、今、説明会を開催させていただいておりますが、保護者の方、全てを対象しましたアンケートを実施させていただきます。回答期日が短く大変申し訳ないのですが、教育委員会としまして、保護者の方のご意見は大変貴重なものであると認識しており、保護者の皆様におかれましても、ぜひともお声掛けをしていただき、多くのご意見をお寄せいただきますようご協力よろしくお願いたします。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田東中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.15 下田中学校学区説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 15 日（火）午後 7 時から午後 8 時

場 所 下田市立下田中学校体育館

出席者 保護者及び教職員：33 人

市教委：佐々木教育長、峯岸課長、山梨参事、吉田係長、土屋指導主事、土屋技師、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんばんは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田中学校学区説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしく願いいたします。初めに教育委員会側出席者の紹介をさせていただきます。

— 市教委側 自己紹介 —

それでは、続きまして佐々木教育長より挨拶を申し上げます。

2 教育長挨拶

<教育長>

皆様、こんばんは。大変お忙しい中、中学校再編に係る説明会にご出席いただきましてありがとうございます。

この説明会の趣旨でございますが、下田市総合教育会議で検討・協議した内容について説明させていただきます。保護者の皆様からのご意見をお伺いしたく、中学校学区単位に開催させていただいております。10月24日には稲梓中学校学区で、11月11日に稲生沢中学校学区で説明会を実施し、また未就学児の保護者の方を対象としまして、民間保育園、認定こども園、幼稚園及び保育所での説明会も実施させていただきました。

また、市長と語る会を10月17日から昨日の11月10日までの期間、市内6地区で開催しました。市長より、学校再編をトップに庁舎や地域の課題について、話し合いを持ちました。

それぞれの会での、ご意見としましては、通学費や通学方法、そして、1校化になった場合のメリット・デメリット等のご意見を頂きました。

この後、事務局より今日に至った経緯と今後に向けてのスケジュール等の説明をさせていただきます。最後になりますが、教育委員会としまして、下田市の子ども達の未来に向けて「子どもにとって、より良い学習環境創り」をしていきたいと思っておりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(女性)>

子どもが下田高校に通学しているのですが、親の送迎について何時から何時までは通行できないなど制限があり、また道路環境として道幅も狭く、送迎が近くまでできません。仮に稲生沢中となった場合、より多くの子どもが集まることになると思いますが、そういった部分での対策を何か検討されていますか。

<課 長>

ただ今頂いたご意見につきましては、説明会におきまして初めて聞かせていただきました。今の時点では、候補地についてどちらか決定しておりませんので、こういった問題について、中学校再編検討会議で課題として挙げさせていただき、その中で検討をさせていただきたいと思っております。ご指摘いただき、ありがとうございました。

<保護者(女性)>

それぞれの中学校候補地付近の子どもは良いと思いますが、遠方から通学する子どもたちは、災害時の引き渡しであったり、道路が寸断された時など、親にとっては非常に困ると思われれます。また通学時においても同じことが言えると思いますが、そういった時など防災面での対応をどのように考えていますか。

<課 長>

特に東日本大震災以降、防災についての意識が高くなっておりませんが、大震災以前からも各中学校では、防災教育というものを実施させていただいております。また防災教育推進連絡会議というものもありまして、各学校において防災マニュアルというものは策定させていただいております。1校化になりますと、本日は下田中学校区で説明会を開催しておりますが、仮に稲生沢中が候補地になった場合、今以上に遠方になりますし、安全性についても下がると思われれます。ただ今頂いたご意見につきましてはご指摘のとおりだと認識しております。その対応につきましては、市の防災部局と協力をしながら、避難経路の確保や避難所の確認などの整合性をとりながらマニュアルを作成するなどの対応はしていかなければならないと認識しております。また、検討会議においてもこういった課題についても提示をさせていただきたいと思っております。ご指摘いただき、ありがとうございました。

<保護者(女性)>

遠方の人などはバス通学ですとかなり高額になると思われれます。スクールバスなどの検討はされるのでしょうか。

<課 長>

まず、通学補助について、資料の中にも記載させていただいておりますが、本日は下田中学校区で開催させていただいておりますので、補助内容について、改めて確認させていただきたいと思っております。現在の補助内容につきましては、小学生は4km以上に全額、中学生は6km以上に半額補助を例外の地区はございますが、交付しております。27年度ですが、下田中は66人の生徒に約212万円交付させていただいており、単純に1人当たりを算出しますと年3万円くらいとなり、中学生は

半額補助であり、保護者の方もこの額をご負担していただいております。一方、統合し稲生沢になった場合ですが、生徒数は196人、年間で約14,000万円、1人当たり7万5,000円くらいとなり、今の補助制度のままでいきますと負担が増えてしまいます。具体的な通学の補助内容については、今後決定されますが、教育委員会としまして、保護者の方に今以上の負担を増やさない形で取り組んで参りたいと考えております。

<教育長>

スクールバスについてご指摘いただきましたので述べさせていただきますが、教育委員会といたしましては、子どもたちに負担をさせないために最も良い方策を検討させていただく中で、仮にスクールバスを運行することによって財政的負担軽減や方法によっては通学時間も短くできるなども考えられます。そのような様々なご意見をいただき、検討をさせていただく中で、子どもたちが最も良いと思われる形で最終決定をさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

スクールバスが出た場合、朝早くからの部活であったり、また学年によっては部活をやらなくて帰宅する子どももいます。また、市内全域からの通学となるとやはり混雑することは避けられず、例えばずっと立っている子の負担であったり、先輩後輩のしがらみなども出てくると思います。スクールバスが運行するようになった場合には、可能な限りそういったことにならないよう細かな配慮もお願いしたいです。

<教育長>

例えば、公共交通機関などを活用する場合には、当然増便やあと部活の有無による時間差のお話も頂きましたが、必要な時間にダイヤの設定をしていただくなどの協議をさせていただく必要が出てくると考えられます。スクールバスの運行となった場合についても同じようなことを当然考えていく必要があると考えております。バスが混雑するということですが、私が中学になった時に統合され、そういった混雑した経験をしました。なるべくバス1台に多く乗るということで1年生は立って、3年生は座るといったような、良いかどうかはわかりませんがそのような色々な状況が生まれると思います。教育委員会としまして、可能な限り細かな配慮をさせていただき、ベストな状態で望ませていただきたいと思います。

<保護者(男性)>

利便性ということで、今、下田中か稲生沢中という2校が候補地として絞られておりますが、保護者からすれば、2校のうち自宅から近いところになれば越したことはないと思っているのではないかと思います。今後、この2校を絞るのに何を決め手に選ぶのか、教えていただきたいです。バスであったらその負担額が少ない方にするなど考えられると思います。また、仮に稲生沢になった場合は、下田中の土地が空くことになり、例えば、浸水区域にある下田小をここに持つてくるというようなことも考えられると思いますし、そうであるならば、下田中学区の保護者はおそらく賛成するという事も考えられると思うのですが。

<教育長>

最終的な決め手というものは、現時点では持っておりません。ただこういった説明会などでご意見を頂きながら、色々な条件の中でどちらが良いのかということを決断していかねばならないと理解しておりますが、例えば駐車場の問題、グラウンドの広さの問題など、たくさん課題が出てくると思います。それらを総合的に判断する中で、最終的な決定をしていくことになるのかと思います。申し訳ないですが、現時点では今発言させていただいたように進めさせていただき

たいと考えております。先ほどから検討会議のお話をさせていただいておりますが、その中で様々な課題を出していただき、方向性としてはこちらの方が良いのではないかとこのところを教育委員会として見出していきたいと考えております。現時点では、皆さんのご意見を聞きながらそれぞれの課題を整理し、最終的な判断をさせていただくことになるかと理解しております。

<係長>

補足させていただきますが、先に開催させていただきました第1回の検討会議についてですが、会議の中で色々なご意見が出されており、その中でこういった形で判断をしていくのかということもご意見として頂いております。その具体的な内容につきましては、市のホームページに資料とともに議事録も掲載させていただいておりますので、参考にいただければと思います。

<保護者(男性)>

中学校がどこが良いかという判断の中に、通学の距離などを検討する必要もあると思いますが、中学校跡地をどう活用していくのか、それらを含めた有効性によって比較をするという部分も重要だと思えます。下田市全体として、市の姿勢として、そのような跡地利用についての検討をどうするのかという部分の検討もぜひお願いしたい。

<課長>

跡地利用につきましては、他の説明会や市長と語る会で特に地域の方からのご意見を多くいただきました。現在、具体的な跡地利用をこうするんだというものはありません。ただ、過去の事例を申しますと田牛に青少年海の家がありますが、これはかつての登自小学校を活用したもので現在、田牛地区の修学旅行の受け入れのための中核の施設として活用されております。また、加増野にはポーレポーレという農業体験施設があり、こちらはかつての加増野小学校、須原にもあずさ山の家がありこれもかつての須原小学校跡地に建てられており、活用されております。市全体として考えていかなければならないということは理解させていただいておりますが、教育委員会としましては資料の49ページにも記載してありますとおり、まずは、子どもたちの教育環境を守り、改善していくことが一番最優先事項だと考えており、新中学校候補地の決定につきましても、そういった視点をもとに選定をさせていただきたいと理解しております。

<教育長>

補足させていただきますが、やはりただ今いただいた跡地の問題については多くのご意見を頂いております。先ほど課長からもありましたとおり、まずは子どもたちの環境をいかに良くしていくのかという視点を大切なこととして、取り組んで参りたいと考えております。しかし今後、ある程度再編の検討についての方向性が見えてきた時点で、当然、跡地利用についてもスケジュール的にも市として決めていかなければならないと思えます。例えば、話として出ているのは市庁舎を跡地に建てるのが良いのではないかとのご意見も頂いております。しかし、そういった部分を含めて比較したときに、学校が先なのか、庁舎が先なのかというような、色々な思惑というものが絡んできてしまうという部分もあるのではないかと感じております。そういったことを踏まえると、教育委員会としましてはまずは子どもたちの教育環境というものを最優先に考えさせていただきながら、現在、取り組みをさせていただいておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

<保護者(女性)>

中学校の耐震ランクについて、具体的な説明をお願いしたいのですが、よろしいでしょうか。

<課長>

説明資料の38ページに東海地震に対する耐震性能の表を掲載させていただいておりますのでご

確認願います。まず、ランクについては、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲに分けられており、Ⅰは更にⅠaとⅠbに分かれております。それぞれに性能がありまして、Ⅱまででしたら、耐震性がやや劣る建物とされておりますが、耐震性があるという基準となっております。稲梓中校舎と下田東中校舎はⅡで耐震性はやや劣るとなっておりますが耐震性はあると判断され、それ以外の中学校も含めて、全ての中学校で、防災上の耐震性はあるとご理解いただいてよろしいと思います。基準については、国の基準となっております、理想を言えば、ⅡよりもⅠb、それよりもⅠaになった方が良いということになります。

<係 長>

それでは最後になりますが、今、説明会を開催させていただいておりますが、今後、保護者の方、全てを対象しましたアンケートを実施させていただきます。教育委員会としまして、皆様からの多くのご意見を頂くとともに多くの課題について、今、再編の検討会議というものを設置しており、その中で皆様のご意見を集約、検討させていただき、より良い学校再編に向けて進めていきたいと考えております。教育委員会といたしましても保護者の方のご意見は大変貴重なものであると認識しており、保護者の皆様におかれましても、ぜひともお声掛けをしていただき、多くのご意見をお寄せいただきますようご協力よろしくお願いいたします。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田中学校学区説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.1 稲生沢・ひかり保育園合同説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 1 日（火）午後 3 時から午後 4 時

場 所 稲生沢保育園

出席者 保護者：8 人

市教委：峯岸課長、吉田係長、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんにちは。ただ今から下田市総合教育会議報告書稲生沢保育園・ひかり保育園合同説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、続きまして峯岸学校教育課長より挨拶を申し上げます。

2 学校教育課長挨拶

<課 長>

— 学校教育課長挨拶 —

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(女性)>

今回の説明会は、総合教育会議と示した方向性についての意見を確認するためのものですか。またこの方向性についてですが、一校化することは既に決まっていることなのですか。

<課 長>

市としてはあくまでも方向性を示させていただいたということになります。これから一校化に向けて、どのような課題があるのかという様々なご意見をいただきたいという目的で、今回の説明会を開催させていただいております。

<保護者(女性)>

今回、アンケート結果からも反対やどちらとも言えないと回答している方が多いのに、下田市総合教育会議として、一校化で行く方向性を示したということですか。

<課 長>

アンケートにつきましては、小中保護者及び教職員の方に対し実施させていただき、再編に賛成

という意見は 51%、反対 12%、どちらとも言えない 37%という結果でした。そのうち、どちらとも言えないと回答した方の理由を確認したところ、通学に対する不安というものが一番理由として多い結果でした。その通学に対する不安をクリアすれば、一校化することが一番子どもたちにとってより良く学習環境が改善されるということで、今回の方向性を示させていただいたこととなります。確かに 8 年前に稲梓中と稲生沢中を統合しようと進めていましたが、地域の方などから統合に反対という動きとなり、統合を見送った経過がありました。そういったことも踏まえまして、今回は、様々な方からのご意見を頂きながら、中学校再編について、ある程度時間がかかったとしても進めさせていただきたいということで、本日の説明会を開催させていただいております。

<保護者(女性)>

これから実際にその統合された中学校に通学する世代に対して、アンケートを実施しますか。

<事務局>

説明会后に、保護者の皆様を対象としましたアンケートを実施させていただく予定です。

<保護者(女性)>

この方向性というのは、決定したことなのかどうか、よくわからないのですが。

<事務局>

あくまでも総合教育会議としての方向性という形で、示していかないと今後協議を行うにしても先に進めることが困難になるだろうということで、協議した結果、今回の方向性ということで皆様に提示をさせていただいております。

<課長>

実際に新中学校に通学する世代に対するアンケートにつきましては、下田市立中学校再編検討会議という市内の全小中学校長、PTA会長、6地区の区長会長さんが委員となっている会議において、協議した結果、実施させていただくという形になっております。併せて、説明会につきましても今日の稲生沢・ひかり保育園の他にも認定こども園、下田幼稚園、下田保育所においても開催させていただきます。

<保護者(女性)>

3点ほど質問させていただきたいです。1つ目は、総合教育会議のメンバーはどういった方々で話し合われているのですか。2つ目は単学級編成の学校において少人数による支障が教育活動に生じてくる場合と記載しておりますが、今の段階でどういった問題が出てきているのですか。3つ目は学級数のところで学校教育法施行規則として昭和 22 年 5 月ととても古いと思いますが、その内容で良いのですか。

<課長>

総合教育会議のメンバーについてですが、市長、教育長、教育委員 4 人の計 6 人となります。教育委員の方につきましては、市内の中学校区ごとに委員がおりまして、学校の先生のOBの方や実際に小中学校に通学されているお子さんをお持ちの保護者の方をお願いをしております。これとは別に下田市立学校等再編整備審議会という組織がありますが、これは様々な方をお願いをしております。学校長やPTA会長、地域代表として区長、市民代表など、多くの方に委員をお願いしております。2点目につきましては、ただ今の内容につきましては、前回の答申内容なのですが、説明資料の 32、33 ページをお願いします。小規模化、大規模化のメリット・デメリットについて記載させていただいておりますが、具体的にお話しをさせていただきますが、稲梓中においては、1学年に1学級しかありません。下田中はまだ複数クラスがあり、下田東中は3年生が2クラスで他

は1クラスという状況になっております。教育委員の方がおっしゃっているのですが、少ないクラスの場合、小学校1年生から中学校3年生まで同じクラスメイトでいきますとクラスの中である程度、形が決まってしまう、例えば運動が得意な子はこの子、勉強のできる子はこの子などとなってしまい、競争することがなくなってしまいます。大きな学校になりますと、そこで競争、またクラス替えなどができるため、中学を卒業し、その後の高校や大学、社会に出たときに相当な影響は少なからずあるだろうとおっしゃっておりました。また部活の面でも少ない生徒数になりますと選択できなくなってしまうことや、先生の配置という面についても選任の先生を配置することが難しくなるという現状があります。確かに、小規模であれば一人ひとりに目が届きやすく、きめ細かな指導ができるというメリットはありますが、競争という面では教育委員会としては懸念があるだろうと考えております。

<事務局>

3点目の学級数の基準が古いのではないかという点についてですが、こちらは資料に記載する際に法令等につきましては、最初に施行された年月日を記載するということになっておりまして、このような記載方法とさせていただきます。内容につきましては、学級数は12学級から18学級というものは現在も生きておりますのでよろしくお願いいたします。

<課長>

別件になりますが、先ほど中学校への通学の距離と時間の部分の説明をさせていただきましたが、距離の6kmという基準は昭和33年に施行された基準になります。

<事務局>

その6kmという基準は生きているのですが、その後、国では通学するための交通手段などが整備されていることを条件とした形でおおむね1時間というものも手引において示しているという形になっており、現在は距離や時間が合わさったものとなっております。

<保護者(女性)>

なぜこの質問をさせていただいたのかと言いますと報告書におきまして、学級数がメインで書かれており、これは今後少子化が進むことにより、統合したとしても更に学級数は少なくなってきてしまうと思っています。そういう状況であるならば、もっと教育に対しての予算を使っていたきたいという思いがあるのですが。

<課長>

まず最初に言いますが、例えば4校が1校になることにより、行革の一環で中学校再編を考えている訳では絶対ありません。教育委員会としては、子どもの教育環境を良くするために現在再編に取り組んでいます。予算的な部分の話ですが、下田市はここら辺では低い状況となっております。しかし、今回の再編につきましては、先の話になりますが、校舎につきましても、今ある校舎をそのまま使えば良いではないかということではなく、しっかりとした新築の校舎建設をするか、改築の場合となった場合でも、今ある校舎を大改修して、ある程度グレードを上げる形で子どもたちを迎えてあげるといことは考えていかなければならないと感じております。

<保護者(男性)>

以前、下田北高と南高が統合し、南高跡地に現在の下田メディカルセンターが建設されました。今回、1校化になると残る3校の跡地の利用はどのように検討されているのか伺いたい。

<課長>

子どもの学習環境を良くすることを目的に再編を考えている際に、跡地利用のことを検討するこ

とは、もう少し先のある程度、再編内容が固まった後に検討すべきものだと考えております。例えば、学校跡地に庁舎を建てれば良いなどというご意見もいただきますが、まずは子どもたちの学習環境を良くすることを先に検討すべきものだと教育委員会は考えております。よく学校がなくなることからコミュニティが低下するというとも言われておりますが、そういったことにつきましては、当然今後、学校再編内容が固まった後に、下田市として地域の方々と検討していくべきものだと認識しております。例えば、田牛などでは青少年海の家というかつて登自小学校だった施設が残っておりますが、そこでは田牛地区の教育旅行の受け入れのための集会場として広場が活用されていたり、加増野ではポーレポーレという施設がありますが、これは加増野小学校跡地に体験施設を建設し、地域で活用をしております。

<保護者(女性)>

通学のことで、公共交通機関を使用することで検討されておりますが、スクールバスなどの検討はされないのですが。

<課 長>

現時点で試算させていただいたのは公共交通機関の場合になります。当然、今後のご意見などからスクールバスなどの検討もさせていただきたいと考えております。今回、試算をさせていただいた理由といたしましては、先ほどからもありまして、通学に対する不安が多いということで参考資料として掲載をさせていただいております。市の通学費に関する補助制度について少し説明させていただきますが、中学生については6km以上の生徒に通学定期の半額を補助金として交付しております。よって、保護者の方は半額負担していただいているという状況になります。今後、中学校が1校化になりますとその費用がより多くなってしまいます。そういった通学費用的な資料として、今回の資料をつけさせていただきました。ただ今、ご質問頂きましたスクールバスなどについても、今後、一つの選択肢として検討をさせていただきたいと考えております。

<係 長>

今回、なぜ公共交通機関で試算をさせていただいたのかと言いますと、中学生の年代になりますとある程度、社会性という部分も必要であると考えており、その一環として公共交通機関を想定させていただきました。また、現在、人口減が進んでいる中で、地域のお年寄りなどが乗る公共交通機関というものが今後成り立たなくなる可能性もあり、そういった公共交通を維持継続させるためにも今回の試算をさせていただいたという経緯もあります。今後は、スクールバスの検討も当然行いますが、地域の実情に応じた形で検討させていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

資料 48 ページですが、「以下の結論に至りました。」と記載されておりますが、この書き方ですと既に決定されたことだと勘違いをされ、何か結論ありきではないかと思えます。前回の統合についても、地域の方が知らないという状況の中で進められていたという経過があると思われ、今回の中学校再編についても、実際統合される世代の保護者の方は何も知らなかったということをよく聞きます。アンケートについても、現在小中学校に通っている保護者対象のアンケート内容に基づき、方向性が決められていて、事前に統合される世代の保護者の方にも聞いて欲しかったと思えます。結局、今の小中学校の保護者の方は関係ないと思えます。統合される世代の保護者の方は、寝耳に水という状況だと思います。また、今回の説明会の参加者についても少なく、時間帯についても悪いのではないかと思います。

<課 長>

情報が流れてきていないということやアンケートなどについても小中学校対象に行いましたが、統合される世代の保護者対象のアンケートについても後出しになってしまったことにつきまして、まさに反省すべきことだと考えております。8年前の統合の協議が流れてしまったことを知っている私自身も、より丁寧に行わなければならないと感じておりましたが、ただ今頂いたご意見のように市はもっと慎重に行わなければならないと改めて認識をさせていただきました。本当にありがとうございます。また、書き方につきましては、あくまでも方向性を示した中での結論に至ったという内容ですので、今、様々な方からご意見をいただいているという状況になります。情報提供の関係ですと9月広報に、また報告書概要版につきましても幼保こども園学校等を通じ、全ての保護者の方に配布をさせていただいております。また、説明会の参加者が少ないという対応としましては、本日の資料を全ての統合される世代の保護者の方全てに届くよう配布させていただきたいと考えております。

<係 長>

説明会につきましては、中学校区においても夜に開催させていただいており、こちらに参加していただいても構いませんので、ぜひともご参加いただければと考えております。

<保護者(女性)>

「結論に至りました」という文言を変更した方が良いのではないのですか。また、報告ではなく、検討という形にすれば良いのではないのですか。

<課 長>

確かにこの「結論に至りました」という表現は、誤った印象を与えかねないので、資料説明の仕方も含めて、検討させていただきます。あくまでも現時点におきましては、方向性を示したもので決定事項ではありませんのでご理解いただきますようお願いいたします。

<保護者(女性)>

資料を配布するということでしたが、この厚い資料を子育てが忙しいお母さんたちに渡されても絶対に見ないと思われそうですので、もう少し要点を絞った形のものを配布した方が良いのではないのでしょうか。

<係 長>

この部分につきましては、賛否両論がございまして、もっと細かいものを提示していただきたいという保護者の方もおられるので今回の資料を作成させていただきました。教育委員会としましては、できる限り細かい資料を配布させていただき、情報提供をさせていただいております。

<保護者(女性)>

資料が欲しい保護者の方に提供する形で良いのではないのでしょうか。

<係 長>

当初、報告書と説明資料を全部配布させていただく予定でしたが、園と協議させていただき、園に設置させていただき自由に持っていってもらえる状況を整えるか、検討させていただきます。

<課 長>

いずれにしましても、報告書の要点を絞った概要版というものは全ての保護者の方に配布させていただいております。配布してもまず見ていただくという部分が大切だと思いますので、そういった部分を検討させていただきたいと思います。

<保護者(女性)>

今回の説明会は、活発に意見を言うことにより、これまで決まったことについて覆るようなことができるのですか。もしくはそうではないのですか。「結論に至りました」というような表現だとなかなか、意見や問題が出てこないようなものになるのではないかと思います。

<課 長>

スケジュールなどにも記載させていただいておりますが、説明会につきましては要望により、開催をさせていただきます。今、このような説明会を開催させていただいているのですが、市内6地区で開催します市長と語る会をメインで開催させていただき、その後、中学校学区単位での保護者説明会、そして、未就学児保護者のため、ここの稲生沢・ひかり保育園をはじめ、認定こども園、下田幼稚園、下田保育所での説明会、また説明会とは別にご意見を伺う場としまして、下田市立中学校再編検討会議、メンバーは校長先生、PTA会長さん、区長さんで構成しておりますが、その会議を設置し、様々なご意見を伺っております。

<保護者(女性)>

実際に今回開催されて、今日の人数についてどう思われましたか。

<課 長>

かなり心配はしておりましたが、実は稲梓中学校区の説明会も少ない人数でした。実際問題として、中学生しかお子さんがいない保護者の方は、結果から言えば、もう関係ないという判断をしているのではないかと考えております。そういった部分も踏まえた中で、今回、未就学児の世代を対象としました説明会を開催させていただいているという部分につきましては、ご理解をいただきますようお願いいたします。

<保護者(女性)>

再編するにあたって、一番重要であるのが通学補助に関する事だと思われまます。資料の中で関係各所と記載しておりますが、これは具体的にどこと協議するのですか。また、田牛地区の小学生には通学補助が出ているが、碁石ヶ浜に住んでいる田牛地番の子どもたちには補助が出ていないということを知っております。この部分についても教えていただきたいのですが。

<課 長>

数的に言いますと、中学校全体で通学補助として440万円くらい出しております。仮に稲生沢か下田に再編した場合、全額補助ですと現在の10倍の4,000万から6,000万円くらいになります。庁内におきましては、企画財政課という部署があり、教育予算をもっとつけることができれば良いのですが、市の全体の財政状況を鑑みながら、検討をしていかなければなりません。また、小学生補助につきましては、4km以上に全額補助をしておりますが、例外がありまして、過去に学校統合を行った地区につきましては、距離制限がなく、補助金を交付しております。

<係 長>

田牛地区につきましては、かつて朝日小学校へ統合した際に、4kmの距離制限を外しております。碁石ヶ浜につきましては、学校統合後に分譲地が開発されましたので、地番が田牛であったとしても4km未満ですので、現在は補助を出していないという状況になっております。

<課 長>

関係各所についてですが、先ほど説明しましたのは役所内のことですが、これとは別に今後、再編協議が進むにつれて、学校関係者、PTA関係者などで構成する統合準備委員会というものを立ち上げます。通学のこともそうですが、学校名や校歌、制服など様々なことを協議させていただき、決定をしていきます。

<保護者(女性)>

通学の補助については、統合が決まった後に検討するというスタンスではなく、ある程度、こういった補助をするからということで「どちらとも言えない」と回答している保護者が賛成に移るのではないかと思うのですが。

<課長>

現在の補助制度のまま再編すれば、ほとんどの保護者の負担は増えることは確実にあります。教育委員会としましても、そのままでは理解は得られないと判断しております。全額補助も含め、保護者の負担を増やさない形で検討をさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

今、人口減少が言われておりますが、子育ての手厚いところには人が集まると思います。また、行政というのは大きな力を感じており、決定してしまうとなかなかそれを覆すことは難しくなります。そういった部分を十分理解していただいた上、慎重に進めていただきたいです。

<課長>

ありがとうございます。多少時間がかかったとしても、ご意見をいただきながらより良い方向へ持っていきたいと考えております。認定こども園は統合されましたが、子どもを各地区で見てもらいたい保護者の方はおられたかもしれません。今回、こういったご意見をいただくということは、中学校再編について、より慎重に進めていかなければならないと認識しております。

<保護者(女性)>

こども園については、通園バスについての問題が一番大きかったと思います。また小耳に挟んだんですが、そのバスも最初だけ運行して、しばらくしたら廃止するという情報もあります。白浜地区の人たちなどは、幼保と中学校は違いますが、統合という部分では同じだと思いますので、通学というものは重要だと思います。

<課長>

通園バスを廃止するというのは、こちらも初耳です。子育ての手厚いところに人が逃げってしまうということですが、西伊豆町では給食費などを無料にしましたが、そういったところでしょうか。

<保護者(女性)>

函南町が子育てをしやすいまちということで、人が集まり、出生率なども上がっていると聞いています。下田をそういった状況にさせていただきたいです。

<課長>

当然、目標にはさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

伊豆縦貫道についても、父兄の皆さんに署名を頂いたんですが、全然意見が反映されず、もう決まったことのように進んでいる状況が見られます。

<課長>

確かに縦貫道については国が進めている事業なのですが、やはりご意見を出すことは出来ませんが、原発の問題のように大きな動きの中で…。

<保護者(女性)>

今回の中学校に関しても、ご意見を聞くと言っていますが、どれくらい反映されるのかという思いがあります。アンケート結果などを見ても、「どちらとも言えない」の回答が4割弱おります。この4割弱の人が賛成なのか反対なのかによって、大きく変わってくると思いますし、逆に決める

ことができないということは、先ほどの質問と同じような形で決めるための条件が整っていないからということだと思われます。

<課長>

今回のアンケートを作成したのは、実は私でして、作成した頃は、稲梓と稲生沢を先に統合した方が良いのではないかという意見がありまして、そういった方々のご意見を伺うために実施しました。設問についても、あまり条件を与えずにどう思いますかという問いを単刀直入にさせていただき、答えていただいた方より正確な数値が出るだろうという考えで設定しました。「どちらとも言えない」と回答している方のご意見も伺っているのですが、中にはメリット・デメリットがわからないからどちらとも言えないという回答したという方もおりました。そのようなご意見をもとに、そういった部分を解決しながら進めていけば、再編に賛成になるか反対になるかわかりませんが、今回の報告書や説明資料を作成させていただきました。

<保護者(女性)>

「どちらとも言えない」と回答している割合が4割弱あるのに、どんどん進めていく手法に何か納得できない部分があります。アンケートとして、「どちらとも言えない」と回答した方のご意見をチェックしてから吸い上げたのか、そうではなくフリー回答で吸い上げたのかによって、かなり違うと思いますが。

<課長>

設問としては、「賛成」「反対」「どちらとも言えない」の選択肢があり、その次にその回答に至った理由として意見欄を設けましたので、意見としては、「どちらとも言えない」と回答された方のご意見をまとめさせていただいております。よって、理由欄のご意見については正確なものが表れていると考えております。結果を見るとやはり通学について何も示されていないから、どちらとも言えないんだという回答をされた方が多かったと判断しております。

<保護者(女性)>

アンケートについては、私たちにも行って欲しいと思います。

<課長>

今回、アンケートは実施させていただきますが、少し内容が異なっておりまして、より具体的な内容を含めたものになっております。

<事務局>

内容につきましては、今回、方向性として稲生沢中と下田中を示させていただいておりますのでそのどちらが良いかという設問、通学補助の問題で具体的にどういったことを希望されますかという設問、新中学校にどういったことを希望されますかという設問、その他フリー回答欄も設けており、再編に反対であるという方はそちらにご記入いただければと考えております。

<保護者(女性)>

そのアンケートをとる際に「結論に達しました」という表現は避けてもらいたいです。色々と細かいことまで、申し訳ないです。

<課長>

決して、そんなことはないです。こういったご意見をいただくために説明会を開催させていただいておりますので、本当に貴重なご意見、ありがとうございます。

<保護者(女性)>

私は本郷地区に住んでいるため、通学問題についても候補地についても、稲生沢になっても下田

になっても、結論とすれば、生徒数が増えればありがたいと思います。今、お話を聞きながら、遠方の人たちは、通学費が大変なんだなと感じました。そういった中で、稲生沢なのか下田なのかということを安易に決めることができないという部分もあります。こういった説明会や資料を見て、初めて通学補助について理解するという部分もあり、「どちらとも言えない」と回答している中にはこういった中間地点の方も必ずいると思います。再編には賛成だが、遠方の方のことを考えると「賛成」と回答できず、「どちらとも言えない」と回答している方は多いと思います。アンケートを地域別で調べることができるという点が良いのではないのでしょうか。遠方の方については、反対の回答が多いのではないかと思います。

<課 長>

地域別という部分ですが、小学校が7校、中学校が4校ありますが、その学校別での割合を示させていただきます。

<事務局>

アンケート結果を見ますと白浜や浜崎地区につきましては、どちらとも言えないと回答されている割合が一番多くなっております。事務局としては、中学校再編について自分たちはまだ関係ないんだよという認識があるのではないかと、回収率などから見ても平均と比べ低くなっておりますのでそう判断しております。

<保護者(女性)>

生徒数が増え、友達も増え、部活も選択できて、再編することは賛成ですが、やはり通学問題が一番大きな問題でそこが解決しないとなかなか何とも言えない部分があると思います。

<事務局>

そういった通学に関する設問につきましても、アンケート項目として設定させていただきましたので、より多くのご意見をいただいた後に、市として検討を進めさせていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

今回の中学校再編については本当に寝耳に水だったので、アンケートにしても今の小中学校の保護者の方の対象としたもので良いのかという考えがあります。

<事務局>

教育委員会としましては、今、実際に通学されている保護者の方からのこういったところが不満であるとか、そういった中で今後こういう風にしていったら良いのではないかというご意見も非常に重要であると考えております。

<係 長>

就学前の保護者の方のご意見につきましても、今回の説明会を開催させていただいたり、アンケートを実施させていただく中で集約をさせていただき、中学校再編について進めていきたいと考えております。

<保護者(女性)>

中学校の再編に関する周知方法についても、例えば、保護者の方が良くいくところなどに資料を設置するなどの対応をした方がより浸透すると思います。

<課 長>

ありがとうございます。周知方法についても、今後、参考にさせていただきたいと思います。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、稲生沢保育園・ひかり保育園合同説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.4 下田認定こども園説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 4 日（金）幼稚園）午後 1 時から午後 2 時
保育園）午後 3 時から午後 4 時

場 所 下田認定こども園

出席者 保護者：幼稚園）38 人・保育所）11 人
市教委：峯岸課長、吉田係長、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんにちは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田認定こども園（幼稚園部）説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。それでは、続きまして峯岸学校教育課長より挨拶を申し上げます。

2 学校教育課長挨拶

<課 長>

— 学校教育課長挨拶 —

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

【幼稚園】

<保護者(女性)>

現在の下田中学校を見ていると親が送迎をしているケースをよく見ているのですが、統合となると車の台数が多くなるため、送迎をダメにするとかといった検討はされているのですか。

<係 長>

親の送迎の部分につきましては、この後、ある程度の方向性が市として定まった時点で、附属機関であります学校統合準備委員会というものがあり、その中で協議、決定がなされます。今回、参考としてなぜ公共交通機関で試算をさせていただいたのかと言いますと、中学生の年代になりますとある程度、社会性という部分も必要であると考えており、その一環として公共交通機関を想定させていただきました。また、現在、人口減が進んでいる中で、地域のお年寄りなどが乗る公共交通機関というものが今後成り立たなくなる可能性もあり、そういった公共交通を維持継続させるため

にも今回の試算をさせていただいたという経緯もあります。今後は、例えばスクールバスの検討も当然行いますが、地域の実情に応じた形で検討させていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

4校を1校にするということですが、校舎のクラスなどの面積は既存校舎で実際は足りるのですか。

<課長>

下田中学校が一番大きな中学校になるのですが、一番生徒がいたときは約680人おりました。今回、仮に平成33年度の想定ですと、約450人となります。そうであるならば、そのままの校舎で足りるのではないかとお思いになると思われませんが、実際は足りないと考えております。なぜかといいますと今は昔と異なり、特別支援教室であるとかパソコン教室など指導方法が多様化してきているとともに進路指導室等の設備を整える必要があるためです。仮に下田中を新中学とした場合を想定しますと、現校舎では足りないので、新築となった場合は既存校舎を壊したり、改修となった場合については、既存校舎を回収し、足りない部分については建てるなどの検討がなされると考えております。

<保護者(女性)>

実際に統合された際、中学2年生、3年生の制服がバラバラになると思いますが、新たに新調するのですか。

<課長>

先ほども説明させていただきましたが、方向性が定まると学校統合準備委員会という附属機関が設置され、そういった細かなことについての取り決めをさせていただく予定となっております。その中で検討内容については、学校名や制服、校歌、校則、通学方法などが決められます。今後、その中で決定される想定をしております。考え方とすれば、既存の制服を卒業まで維持させる方法や新たに再度、統一された制服に新調してもらうことが考えられますが、あくまでも準備委員会の中で協議を進めさせていただきたいと考えております。

【保育所】

<保護者(女性)>

再編は既に決定されたことなのですか。またスケジュールをお伺いしたい。具体的にいつ1校に統合されるのですか。

<課長>

あくまでも今回の報告書の内容につきまして、1校化や候補地については、いずれも「望ましい」とさせていただいております。よって、市としては方向性を示させていただいたということで、決定ではありません。決して、市が一方向的に決定したということではなく、今回、説明会など実施させていただいておりますが、多くの方からご意見を伺い、できる限り反映をさせていただきたいと考えております。また、再編につきましては、平成33年度以降ということで現在進めております。スケジュールにつきましては、今年度末までに、校長、PTA会長、区長会長さんを集めた検討会議を様々なご意見を伺うために開催させていただき、今年度末までに再編に関する方向性をまとめた報告書を策定します。その後、来年度に入り、再編整備審議会という附属機関に諮問、答申を行い、諮問とはこういったことをしていいのですかというお伺いをし、答申でこういったことについてはこれで良いのではないのでしょうかというキャッチボールを行います。しかし、それでも決定という訳ではなく、その後、教育委員会や総合教育会議で協議調整し、最終的には、市の意思決定機関

であります政策会議にて最終決定がなされるという想定をしております。

<保護者(女性)>

1校化になると市内各地からの通学となり、住んでいる地区によって通学費についても差が出てくるとお考えです。中学校は義務教育期間でもあるので、ぜひとも住んでいる地区によって差がないような配慮をお願いしたいです。

<課長>

ありがとうございます。仮に統合という現実を見ますと、白浜地区の子どもたちは東中に通学されておりますが、間違いなくその距離や時間、金額についても増えます。そういった部分については教育委員会としても理解しております。全額補助を含め、保護者の方が今以上のご負担がない形で検討させていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

通学補助ではなくて、スクールバスなどの検討はされないのですか。

<課長>

当然、スクールバスにつきましても今後、検討させていただく内容だと理解しております。

<係長>

今回、参考としてなぜ公共交通機関で試算をさせていただいたのかと言いますと、中学生の年代になりますとある程度、社会性という部分も必要であると考えており、その一環として公共交通機関を想定させていただきました。また、現在、人口減が進んでいる中で、地域のお年寄りなどが乗る公共交通機関というものが今後成り立たなくなる可能性もあり、そういった公共交通を維持継続させるためにも今回の試算をさせていただいたという経緯もあります。今後は、スクールバスの検討も当然行いますが、地域の実情に応じた形で検討させていただきたいと考えております。

<保護者(女性)>

バスの時間などが無い場合、親が送迎することも想定されると思われませんが、その送迎に対する補助というものも検討していただきたい。

<係長>

現時点における想定では、可能な限り公共交通を活用し、バスダイヤを調整するという中で進めさせていただいております。そういったここまでは公共交通で、ここからはスクールバスまたは保護者送迎として、という全体のバランスを見ながら、こういった補助が可能であるのかという部分を今後、検討してまいりたいと考えております。

5 閉 会

<係長>

それでは、これを持ちまして、下田認定こども園の説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.7 下田幼稚園説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 7 日 (月) 午後 1 時から午後 2 時

場 所 下田幼稚園

出席者 保護者：26 人

市教委：峯岸課長、吉田係長、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんにちは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田幼稚園での説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、続きまして峯岸学校教育課長より挨拶を申し上げます。

2 学校教育課長挨拶

<課 長>

— 学校教育課長挨拶 —

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いします。ご意見のある方は、挙手をお願いします。

<保護者(女性)>

資料を確認しますと最終決定は平成 29 年度中になるのですか。

<係 長>

まず、先ほど説明させていただきましたが、下田市立中学校再編検討会議において、また説明会において、意見集約をさせていただき、今年度末までに教育委員会事務局としてその報告書を策定させていただきます。その後、新年度に入り次第、教育委員会の附属機関であります、下田市学校等再編整備審議会に諮問をさせていただき、その答申を 6 月くらいにいただきたいと思います。その後、市において、中学校再編に関する方向性や新中学校候補地について、最終決定をしたいと考えております。ですので、現在の想定では、来年度の前半には最終決定をさせていただきたいということで進めております。

<保護者(女性)>

4 校を 1 校にすると運動会等のイベント時、保護者の方の駐車場の問題が出てくると思われます

が、何か検討をしているのですか。

<課 長>

ありがとうございます。今回のご意見は初めての内容になります。詳細についての検討は、これから先になると思われませんが、しっかりと今回のご意見につきましては、検討会議などに報告をさせていただきたいと考えております。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田幼稚園の説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。

H28.11.8 下田保育所説明会 概要

日 時 平成 28 年 11 月 8 日 (火) 午後 3 時から午後 4 時

場 所 下田保育所

出席者 保護者：14 人

市教委：峯岸課長、吉田係長、原主事

1 開 会

<係 長>

皆様、こんにちは。ただ今から下田市総合教育会議報告書下田保育所での説明会を開会します。私は下田市教育委員会学校教育課学校教育係長の吉田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、続きまして峯岸学校教育課長より挨拶を申し上げます。

2 学校教育課長挨拶

<課 長>

— 学校教育課長挨拶 —

3 報告書概要説明

<係 長>

ありがとうございました。それでは早速、報告書の概要説明に入らせていただきます。

<事務局>

— 報告書概要説明 —

4 質 疑

<係 長>

それでは質疑に入らせていただきます。いろいろなご意見を伺わせていただきたいと思いますので、ぜひともご発言いただきますようよろしくお願いいたします。ご意見のある方は、挙手をお願いいたします。

<保護者(女性)>

再編する時期についてはいつで、対象となるのは今の何年生からですか。

<課 長>

再編する時期は平成 33 年度以降ということで現在、進んでおります。

<事務局>

今の学年で言いますと、小学校 2 年生が中学校に上がるのが平成 33 年度ですので、小学校 2 年生から 4 年生が該当します。

<保護者(女性)>

最終的な決定はいつ頃ですか。

<課 長>

先ほども説明をさせていただきましたが、今年度末までにご意見を伺いながら、それらを取りまとめ、来年度早々に附属機関である再編整備審議会を開催し、答申を頂いた後、教育委員会、総合

教育会議にて協議調整させていただいた後、政策会議にて最終的な決定をさせていただきたいと考えております。時期としましては、来年の前半頃を想定しております。

<保護者(女性)>

仮に下田中となった場合、かつて大勢の生徒がいたので既存の校舎で対応できると判断しているのか、もしくは新築や改築を想定しているのか。

<課 長>

下田中が多かった時は 680 人の生徒、クラス数としては 17 クラスが、現在の校舎を使用していました。だからといって、既存の校舎をそのまま使用することは教育委員会としては考えておらず、新築や何かしらの改築というものは当然必要だと考えております。その理由としましては、当時と今とでは教育の指導内容が異なっており、例えば、教室にしても特別支援や美術室、また最近ではパソコン室なども整備する必要があるため、現在の教室数では足りない判断しております。

<保護者(女性)>

新築や改築となった場合を踏まえて平成 33 年度以降という期間を設けているのですか。また、その期間はプレハブ等で生徒は過ごすということになりますか。

<課 長>

新築や改築という部分も確かにありますが、それだけではなく、地域や保護者の方との協議などの含めた期間も含めております。また、県教委からは統合する際の期間として、2校を1校にするには2年から3年、3校を1校には4年、4校を1校には4から5年という期間を設け、調整を行うという目安もあります。

<保護者(女性)>

空いた3校の校舎の跡地利用はどのように考えておりますか。

<課 長>

子どもの学習環境を良くすることを目的に再編を考えている際に、跡地利用のことを検討することは、もう少し先のある程度、再編内容が固まった後に検討すべきものだと考えております。例えば、学校跡地に庁舎を建てれば良いなどというご意見もいただきますが、まずは子どもたちの学習環境を良くすることを先に検討すべきものだと教育委員会は考えております。よく学校がなくなることからコミュニティが低下するということも言われておりますが、そういったことにつきましては、当然今後、学校再編内容が固まった後に、下田市として地域の方々と検討していくべきものだと認識しております。例えば、田牛などでは青少年海の家というかつて登自小学校だった施設が残っておりますが、そこでは田牛地区の教育旅行の受け入れのための集会場として広場が活用されていたり、加増野ではポーレポーレという施設がありますが、これは加増野小学校跡地に体験施設を建設し、地域で活用をしております。

<保護者(女性)>

中学校については、避難場所などに設定されておりますが、そういった部分の対応はどうなるのですか。

<課 長>

本日は教育委員会という立場で説明会を開かせていただいております、私たちは子どもたちの教育環境の充実を第一目的として、様々な検討をさせていただいております。跡地利用については、市の全庁的な対応となってきます。当然、皆様からのご要望にお応えしながら、跡地利用というものはこれから考えていくものだと認識しておりますが、もう少し学校の姿がはっきりとしてきた段階で、

当然地域のことを考えていくべきものだと考えておりますので、どうぞご協力いただきますようお願いいたします。

5 閉 会

<係 長>

それでは、これを持ちまして、下田保育所の説明会を終了させていただきます。皆様におかれましては、お忙しい中、長時間にわたり、お疲れ様でした。